

SSL/TLSサーバ証明書の有効期間設定について

◆CertCentralにおける「有効期限」の考え方について

CertCentralでは、証明書に関連する有効期限が 2種類 存在します。（一部のCCE契約を除く）

1. サーバー証明書の有効期限
2. オーダーの有効期限（オーダーのご契約期間＝プラン）

◆料金について

サーバー証明書の料金は、199日単位ではなく、オーダーの契約期間（1年／複数年）単位でお支払いいただきます。バウチャーをご利用の場合も同様です。

◆サーバー証明書の有効期間について

2026年2月25日以降証明書の有効期間は、新規/更新/再発行申請のいずれも最大199日で発行となります。

- 新規申請の場合：サーバー証明書の有効期間は、発行日から最大199日です。
 - 更新申請の場合：サーバー証明書の有効期間は、発行日から最大199日です。
 - 再発行申請の場合：サーバー証明書の有効期間は、発行日からオーダー有効期限日までの範囲内で最大199日となります。
- ※(1)サーバー証明書の有効期間はCA/B Forum で可決された業界ルール ([SC081v3](#)) に基づいた最大日で発行されます

◆オーダーの有効期限について

オーダー有効期限は、上記サーバー証明書の有効期限とは異なり、ご契約期間（プラン期間）を指します。

- 新規申請の場合：1年プランはサーバー証明書発行日から 1年後、複数年プラン（2年・3年）はサーバー証明書発行日から 2年または3年後です。
- 更新申請の場合：1年プランは発行日から更新元オーダー有効期限日の1年後、複数年プラン（2年・3年）は更新元オーダー有効期限日の2年/3年後です。

※バウチャーをご利用の場合も同様です

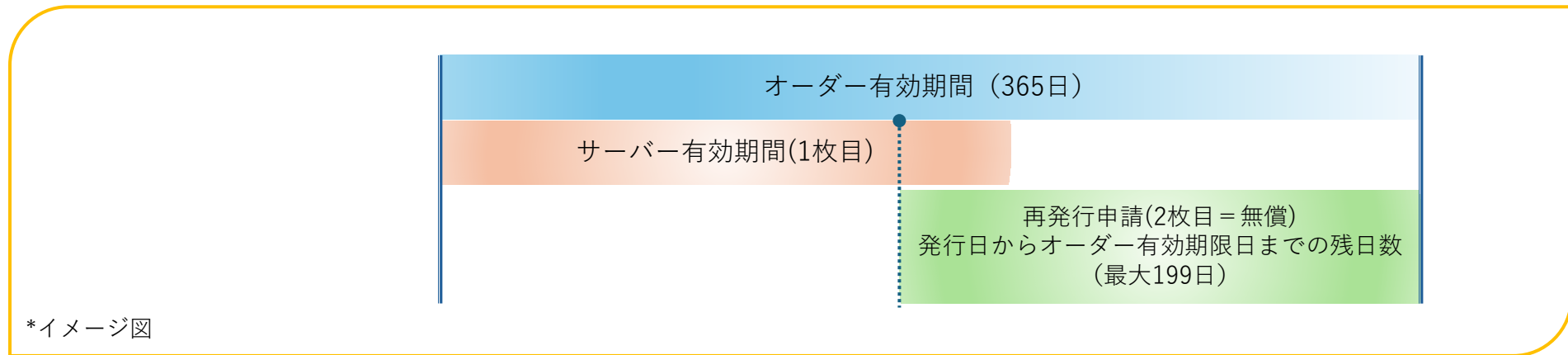
◆証明書の有効期間延長について

証明書の有効期限が切れる前にオーダー期間内でサーバー証明書の再発行申請もしくはプランの更新申請をしてください。

オーダーの有効期間内であれば、サーバー証明書は何度でも無償で再発行可能です。再発行申請手順についてはKnowledgeBaseを参照して下さい。

[CertCentral] 証明書を「再発行」できますか

<https://knowledge.digicert.com/jp/tutorials/certificate-reissue-guide>



◆プランの更新（更新申請）のタイミングについて

プランの更新申請は、オーダー有効期限の90日前から行うことができます。

【参考サイト】

パブリックTLS証明書の有効期間が199日に変更されます

<https://knowledge.digicert.com/jp/alerts/public-tls-certificates-199-day-validity>

TLS 証明書の有効期間は 47 日へ短縮されることが決定

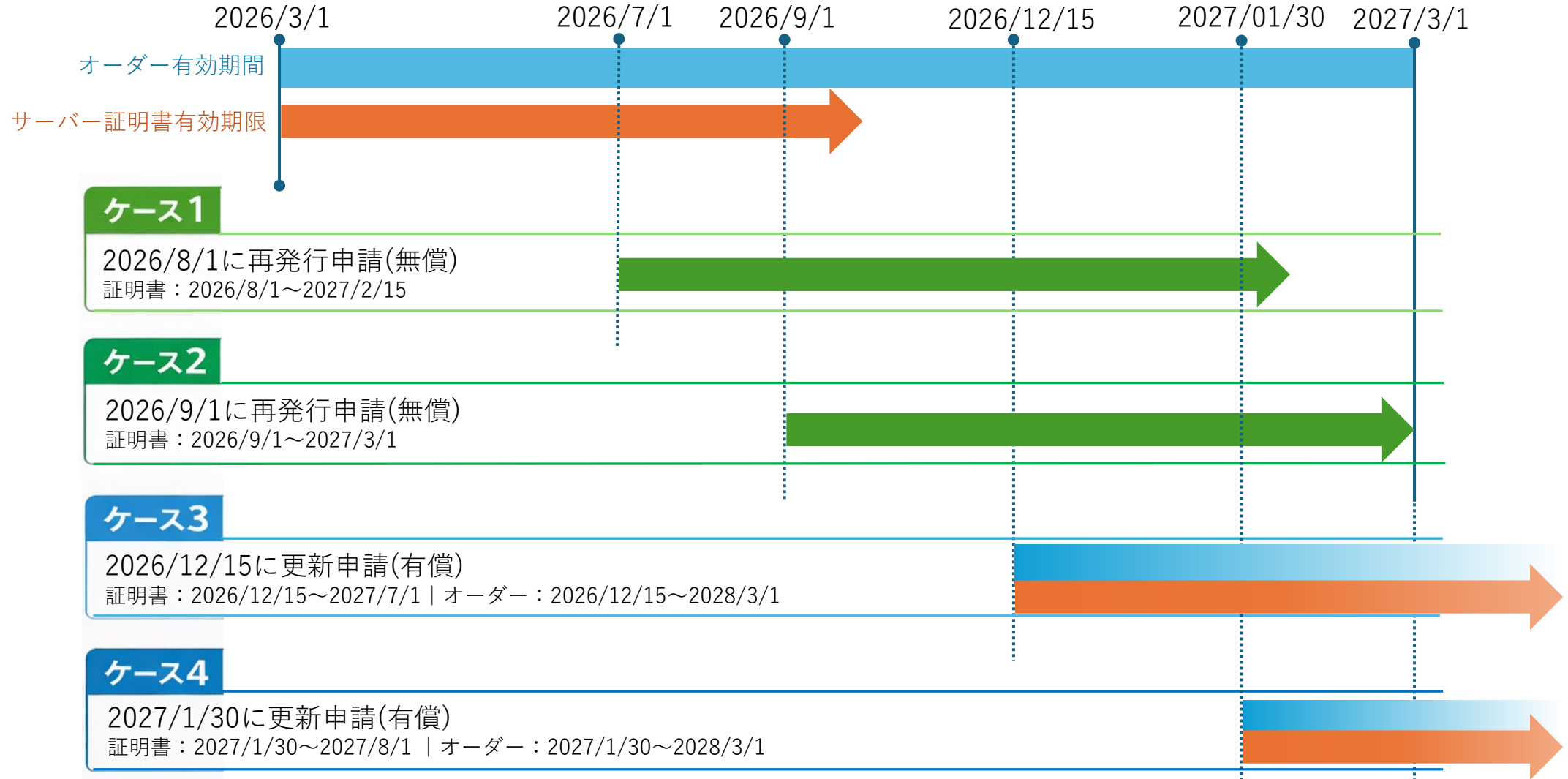
<https://www.digicert.com/jp/blog/tls-certificate-lifetimes-will-officially-reduce-to-47-days>

Ballot SC081v3: Introduce Schedule of Reducing Validity and Data Reuse Periods

<https://cabforum.org/2025/04/11/ballot-sc081v3-introduce-schedule-of-reducing-validity-and-data-reuse-periods/>

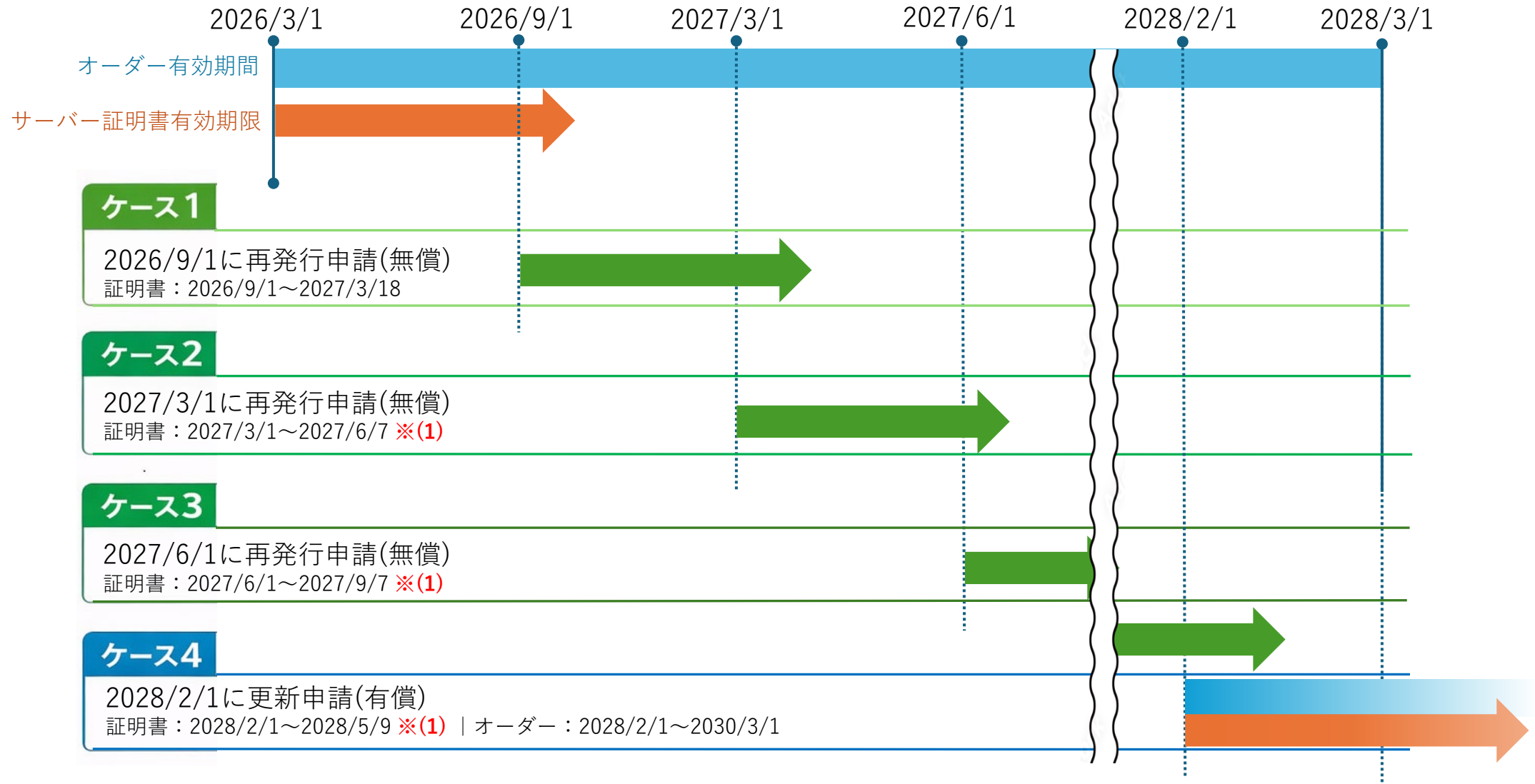
1年プラン – 更新申請/再発行申請のタイミング例

証明書発行日：2026/3/1 | 証明書有効期間：2026/3/1～2026/9/15 | オーダー有効期間：2026/3/1～2027/3/1



複数年プラン（2年プラン） – 更新申請/再発行申請のタイミング例

証明書発行日：2026/3/1 | 証明書有効期間：2026/3/1～2026/9/15 | オーダー有効期間：2026/3/1～2028/3/1



※(1) CA/B Forum で可決された業界ルール (SC081v3) に基づいた最大日で発行されます
<https://www.digicert.com/jp/blog/tls-certificate-lifetimes-will-officially-reduce-to-47-days>